



指定討論 発達心理学の立場から検討する「自分づくり」(資料)

赤木, 和重

(Citation)

日本特殊教育学会第55回大会(2017愛知大会) 自主シンポジウム1-7 「自分づくり」を支援する教育実践の創造と展開

(Issue Date)

2017-09-16

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

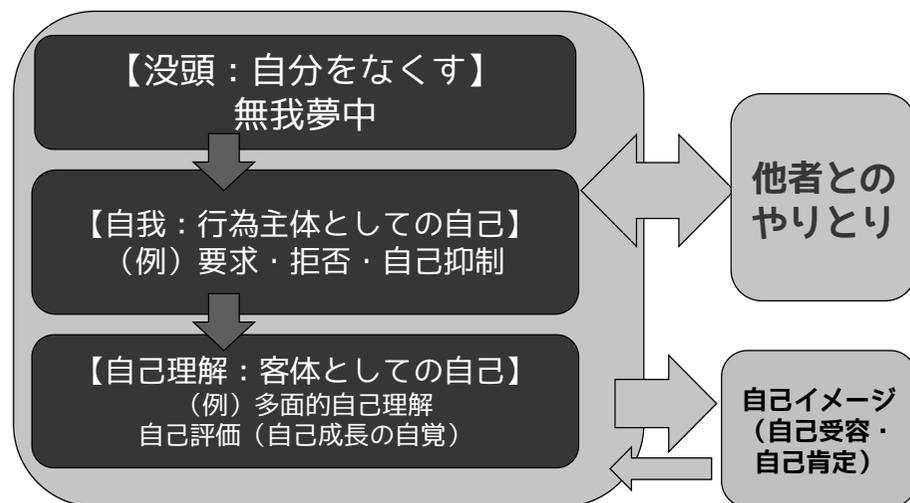
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006480>



指定討論 発達心理学の立場から 検討する「自分づくり」

赤木和重 (神戸大学)
akagi@pearl.kobe-u.ac.jp

三木報告・大宮報告から学ぶ 「自分づくり」の発達論



三木報告／大宮報告 一般的なの実践と何が違うのか？

聴いていると、(少なくとも私は) すーと入る。しかし、「主流」の実践(少なくとも学会で発表される実践報告: 「問題」→アセスメント→指導→「問題」改善→やった!)とは、なんだが違う。だいたい違う。

なにが？

- 1) 「自分づくり」に発達論がある
- 2) 「楽しさ」が中核になっている

このモデルから見えてくること

- 自分づくりの土台: 「自分を意識しせずに遊べること」
 - 無我夢中 = 「(他者評価とは関係なく) 自分のままでよい」「その人の人となり」の土台をつくる (河崎, 2008)
- 【対比】一般的な「自己形成」への支援
(例) ほめて自尊感情を豊かに / 自己理解を深める
- 過剰に「自己」を意識させることが、豊かな「自分づくり」につながるのか？
- 私たちは、「急ぎすぎ」であり、「直線的」なのかもしれない。
(発達 = 「notAからAへ: 質的転換」)
(自己抑制の土台 = 自己主張をたっぷりと: 赤木2017)

「楽しさ」が実践の中核に位置付けられている

- 三木報告・大宮報告の共通点
 - しかし、「楽しさ」ってそんなに大事？エビデンスのレベルとして弱い。数字にできないし。
 - なぜ、そこまで重視するの？
- 「自分づくり」との関係で

「楽しさ」は実践の中核

- 「楽しさ」=【意思表示】「今を充実」させる教育
(対比：能力向上を直接的な目的とする教育=「できる」に拘泥する教育)
(対比：「自己の発達段階」が主役、それにあわせて実践をする)
- 「楽しさ」=「今を充実」→未来につながる
「楽しさ」は発達の原動力(刹那主義ではない)
(例) 楽しそう→自発的な模倣→結果としての能力の獲得
(例) 神戸大附属：「じゃますんのが楽しい」「金魚すくい方式」(能力の獲得・発揮は本来楽しい。そういう活動を組織)
(例) 「楽しさと創造性」(ホルツマン, 2014)

ちなみに… 今年の8月にこんな本が出ました。

全障研兵庫支部・木下・川地・赤木・河南
(編)

『実践、楽しんでますか？：発達保障からみた障害児者のライフステージ』(クリエイツかもがわ)



赤木・岡村・金子・馬飼野(著)

『どの子にも、あ～楽しかった！の毎日を：発達の視点と保育の手立てをむすぶ』(ひとなる書房)



三木先生への質問

- 「楽しさ」の質をどうとらえるのか？どんな「楽しさ」を大事にしているのか？(参考：テレビゲーム的楽しさ/ずっとこちょこちょ遊び)

大宮先生への質問

- 「コミュニケーション的關係」と「自分づくり」の關係は？（「楽しさと自分づくり」はよくわかりましたが…）
- 「ズレ」を教育に生かす象徴的なエピソードは？（参考：「ズレ」＝「ノイズ（消去の対象）」になる傾向）
- 教職員集団づくり：お二人とはちょっと違う？
三木先生「理解しあう努力」
大宮先生「理解，了解，合意」

【三木報告】

発達における試行錯誤，失敗の意味

- (1) 「うまくいかないとき」こそ（集団で）考えるから
 - 「うまくいっている」とときには、「考えない」
 - （例）認知発達心理学の研究＝知的負荷の高い課題
- (2) 鳥取附属：「できない」＝「自己肯定感の低下」にならないという事実（ネタにしてしまうから）
（発展：べてるの家＝「安心して絶望できる人生」）
 - 「うまくいく」をめざす支援＝「うまくいかないとあかん」メタメッセージを発信していることにもなっている
- 青年期の自己肯定感＝「できてほめて自己肯定アップ」の疑問・欺瞞
- 「失敗談を面白くふりかえる」のは？：単純に「失敗をなくしていこう」とはならないかもしれませんが（例：高機能ASD・ADHDの座談会：「汚部屋」への対処の話し合い過程）